

骨太な草地を目指そう！ 石灰資材の散布について

牧草収穫も一段落し、来年に向けた秋の草地管理にお忙しいことと思います。堆肥やスラリ―散布はもちろんだ大事ですが、「美味しい草」作りのため、今年は土改材も散布しませんか？

1 草地が低カル状態?!

図1は、根室管内A町の土壌pHとカルシウム含量の分布です。

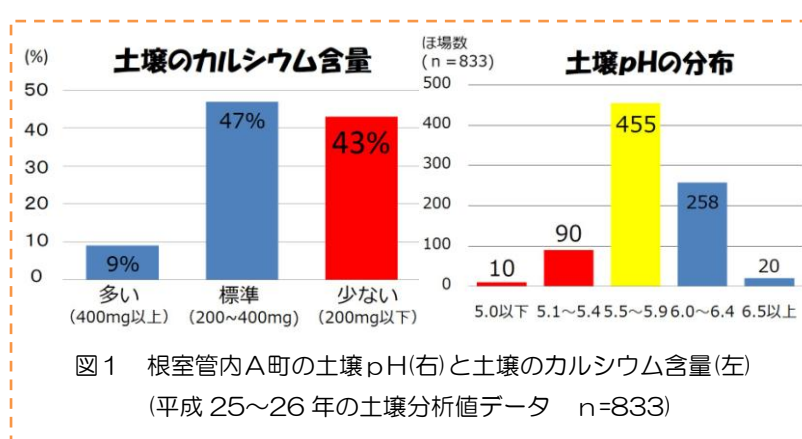


図1 根室管内A町の土壌pH(右)と土壌のカルシウム含量(左)
(平成25~26年の土壌分析値データ n=833)

2 石灰資材の必要性

土壌pHは、雨水によるミネラルの流亡や、施肥後にできる酸性物質の影響で、年数とともに低下します(図2)。pHが低い土壌では、収量の低下や植生の悪化が起こりやすくなります。

経年草地の適正pHは5.4~6.5ですが、5.4以下の酸性化が進んだ草地が1割以上存在しています。また、適正内ではありませんが、酸性化予備軍(図の黄色部分)も多いことがわかります。土壌のCa(カルシウム)含量は半数近くの草地で不足しています。草地は、皆さんが思っている以上にCaが不足しています。

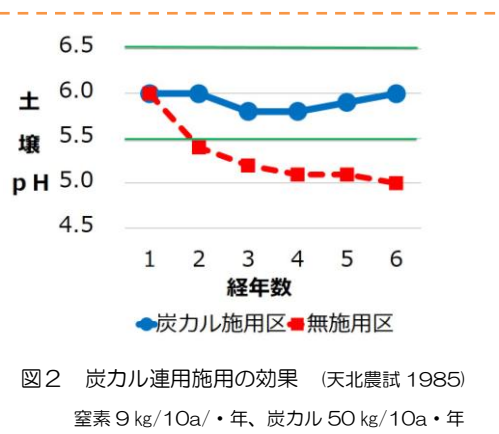


図2 炭カル連用施用の効果 (天北農試 1985)
窒素9 kg/10a・年、炭カル50 kg/10a・年

3 散布する石灰資材と散布量は?

特にマメ科牧草は、Caの吸収量が多く、高めのpHを維持する必要があります。マメ科牧草が定着すると、根粒菌により窒素が供給されるため、窒素の節約につながります。現状が適正pHだからといって安心せず、草地へ定期的にCaを補給してあげましょう。

草地の土壌pHを維持するためには、炭カルの場合で年間10aあたり40kg程度の散布が必要です。散布量×年数で、2~3年分をまとめて散布することも可能です。

炭カル以外の資材は、表1に示した倍率をかけた量を目安に散布して下さい。石灰資材の散布は、草地更新後3年目以降、pHが下がらないうちに行うのが有効です。まずは、草地の状態を知ることが大切です。草地の植生や土壌分析結果をもう一度確認してみませんか？

表1 石灰資材の種類と特徴

資材名	アルカリ分 (%)	炭カルに対する倍率	効果の速さ	特徴
ライムケーキ	30	1.7	やや速い	てん菜糖を製造する際の副産物で安価。水分が高く、堆肥と混合したり専用の散布機が必要な場合がある。 ※専用散布機の貸出等、詳細は農協へお問い合わせください。
炭カル	53	1.0	やや遅い	土壌中での反応が緩やかなため使いやすく、多量に散布した場合も牧草の生育や他の養分吸収に対する影響が少ない。
貝化石肥料	53	1.0	遅い	吸湿性がなく取扱いやすい。性質は炭カルと類似している。

※同じ資材でも、製品によって成分や粒状の違いにより効果の速さが異なる場合がありますので利用の際はご確認下さい。